第85期中間期

株 主 通 信 2007.4.1 ▶ 2007.9.30





株式会社タムラ製作所

株主の皆様へ



株主の皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。日頃は格別のご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

ここにタムラグループの2007年度(第85期)中間期株主通信(2007年4月1日から2007年9月30日まで)をお届けし、営業の概況、当社の取り組み、ならびに決算の状況をご報告申し上げます。

当社は、今年度より取り組んでおります新中期経営計画 (T's POWER!) のもと、当社グループの総合力を最大限に生かし、グループ経営強化と成長拡大事業・安定収益事業・戦略事業の3本の経営機軸による利益シナリオの実現を目指し、日々取り組んでおります。

また、利益配分につきましては、企業体質の強化を図るとともに、株主の皆様への利益還元を経営の最重要課題ととらえ、安定的な配当を継続して行うことを基本方針としており、今後も長期継続的な株主の皆様にとっての価値向上に向け邁進してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後も引き続き変わらぬご 支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成19年12月

代表取締役社長 田村 直樹

数字が示す第85期中間

(中間純利益対前年中間期比)

営業の概況

1. 当中間期の概況

当中間連結会計期間における我が国経済は、企業 収益は引き続き高水準な推移を続け、設備投資は増加、個人消費も堅調に推移するなど景気は緩やかな拡大基調が続きました。一方、世界経済は、中国経済が好調を持続し、欧州・新興諸国などの景気拡大もあり、引き続き堅調に推移しております。

ただ、米国における住宅ローン問題を契機に世界的な金融市場の不安定化や原油価格の高騰、原材料価格の上昇といった厳しい市場環境もあり、当社を取り巻く環境は予断を許さない厳しい状況下におかれております。

このような情勢の中、当社グループといたしましても経営スローガン「オンリーワン・カンパニーの実現」へ向け、今年度より取り組んでおります新中期経営計画(T's POWER!)のもと、当社グループの総合力を最大限に生かし、競争力強化のための業務革新や市場ニーズに合った新製品の投入、また、ERPシステムの有効活用による原価管理の徹底や営業力強化などに取り組み、収益性の向上・安定化などを最重要項目におき業績アップに努めてまいりました。その結果、堅調な市場環境を背景に電子部品関連をでい収益性を維持するなど、当中間連結会計期間の売上・利益につきましては前中間連結会計期間と比較し、増収・増益となりました。

この結果、当中間連結会計期間の業績につきまして、売上高は、468億2千6百万円(前年同期比16.5%増)となりました。また、利益面につきましては、営業利益は23億7千2百万円(同5.7%増)、経常利益は23億1千7百万円(同13.2%増)となり、中間純利益につきましては、12億1千2百万円(同45.5%増)と大幅な増益となりました。

145.5%

2. 通期業績予想

当業界の今後の見诵しにつきましては、世界的な 金融市場の不安定化に対する懸念は解消されておら ず、米国経済の減凍も不安感が残り、原油価格・原 材料価格の高値圏での推移などによる先行き不透明 感はあるものの、世界経済全般としては引き続き成 長を維持する見诵しと予想され、輸出の拡大、企業 収益の改善、設備投資の増加や個人消費の伸びなど といった民間需要が増勢を保ち、緩やかではありま すが景気拡大局面の持続が期待されます。そのよう な環境の中、グローバルに広がる鉛フリーを中心と した各種環境対応製品やデジタル家電製品などを中 心とした好調市場の継続的な拡大成長が期待される 一方、競争の更なる激化を背景とした製品の低価格 化ならびに原材料などの高騰による原価の上昇とい った厳しい市場環境が続くものと予想されます。こ のような環境のもと、当社グループといたしまして も独自性や強みを発揮できる市場を中心により一層 の経営努力を図り、当社独自のオンリーワン技術を 駆使した競争力のある製品をタイミング良く市場投 入し、事業効率をより一層高め、通期での売上・利 益目標を達成するよう努めてまいります。

現時点での平成20年3月期の業績予想は次のとおりであります。

| 売上高 | 910億円 | (前期比 8.1%增) |
|-------|-------|-------------|
| 営業利益 | 48億円 | (前期比13.6%増) |
| 経常利益 | 45億円 | (前期比15.5%増) |
| 当期純利益 | 22億円 | (前期比41.3%増) |

当期の配当金は、安定的な配当を継続して行うという 基本方針に基づき1株当たり年間6円(中間配当金3円、 期末配当金3円)を予定しております。

HIGHLIGHTS

連結売上高(部門別)

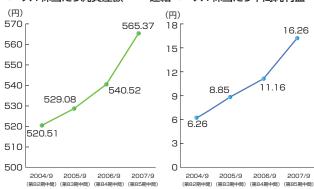


(注) 1. 各事業の外部顧客に対する売上高(事業部門間の内部売上を除く)を表示しております。2. 各事業年度の連結売上高合計には、その他事業(運輸・倉庫・保険業)が含まれております。

連結経常利益·連結中間純利益 ■連結経常利益 ■連結中間純利益



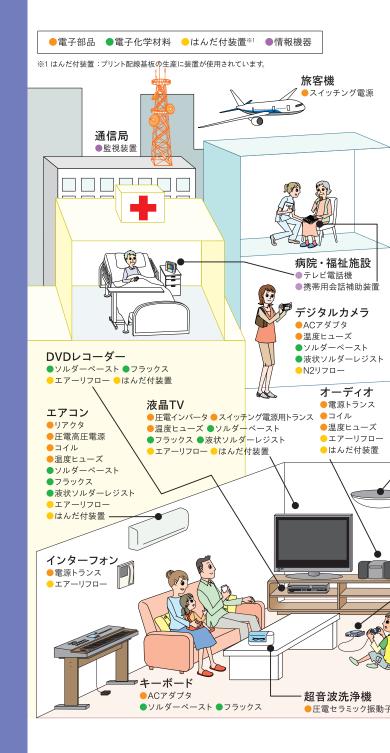
連結ベース1株当たり純資産額 連結ベース1株当たり中間純利益

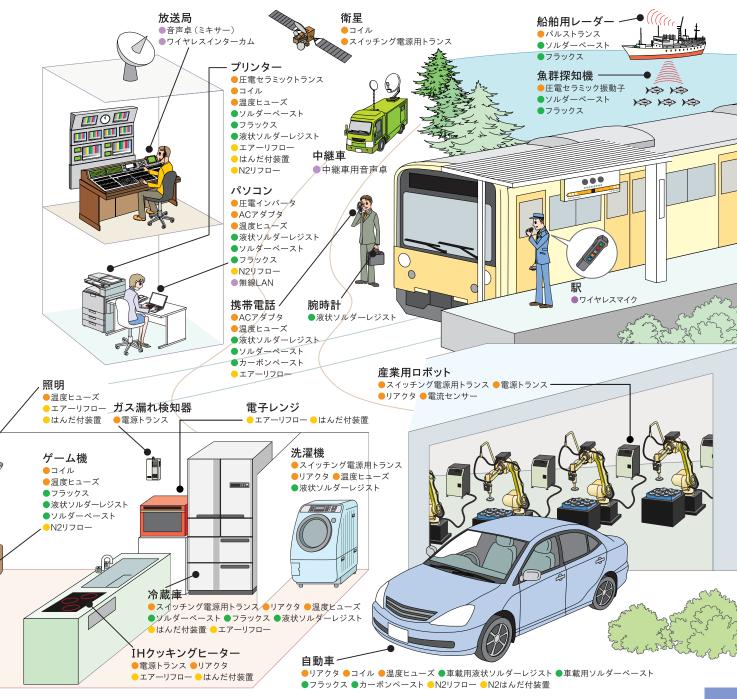


「オンリーワン」を目指すタムラは、 人々の暮らしを支えています。

タムラグループが扱う製品は、素材から最終製品まで、人々の暮らしのあらゆるところに根付いています。家電製品からモバイル製品、産業用ロボット、医療機器、さらには宇宙開発事業にまで幅広く活躍の場を広げています。また、ブロードバンド・ユビキタスネットワークを実現する無線機器、各種通信システム・放送用設備にもタムラの「オンリーワン」の力が発揮されています。

ここでは、タムラグループの製品が、どのようなところで活躍しているかを紹介します。





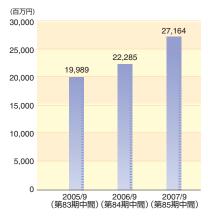
電子部品関連

好調な市場を背景に、事業改革も着実に進展し、増収・増益

電子部品関連事業は、引き続き、事業の収益性向上および安定化を最重要課題とした事業改革を推進している中、好調な市場背景にも牽引され、薄型テレビ・ホームシアターなどのAV機器市場向け製品をはじめ、各種のコンシューマー向け製品並びに電動工具用チャージャなどが好調に推移いたしました。また、グローバルに拡販展開を図る産業機器市場向け製品も設備投資の増加などを背景に堅調に推移いたしました。事業全体といたしましては競争激化による製品の低価格化や本事業における主力製品であるトランス(変成器)の材料費の大半を占める銅・鉄などの原材料価格の上昇や原油価格の高騰といった厳しい市場環境の中、営業力の強化をはじめ、新製品の投入やERPシステムを有効活用した原価管理の徹底による不採算品目の削減などを強力に推進し、強みの発揮できる市場への拡販や収益性の向上に努めた結果、売上・利益ともに大幅な増収・増益となりました。

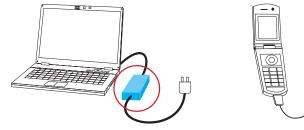
この結果、売上高は271億7千万円(前年同期比21.9%増)、営業利益は8億1百万円(同66.1%増)となりました。

連結売上高 (電子部品関連)



(注)売上高については、文中はセグメント間の内部売上高を含めており、グラフは外部顧客に対する売上高(事業部門間の内部売上高を除く)を表示しております。

ノートPC、携帯電話、デジタルカメラなどのモバイル機器に欠かせないタムラのACアダプター目立たないところでもしっかりと、私たちの暮らしを支えています





独自のトランス技術により、小型化・世界最軽量(79cc,150g 当社従来品 20%低減)、かつ業界NO1クラスの環境対応(低待機電力・高効率設計、完全 PVC*フリー[DCケーブル含む])、を実現いたしました。

これからも電子機器の高性能化・コンパクト化・環境対応のニーズに応え、常に 時代をリードする製品群を提供してまいります。



*PVC:ポリ塩化ビニル。近年ダイオキシンや環境ホルモンの発生源となる恐れから、他の物質への切り替えが進んでいる。

電子化学材料・はんだ付装置関連

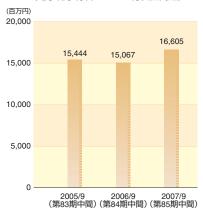
市場への拡販は進むも材料高騰などの厳しい市場環境もあり、増収・減益

電子化学材料・はんだ付装置関連事業は、はんだ付装置関連市場における設備需要の一巡による減速や、パソコン関連を中心とした在庫調整により半導体パッケージ向け材料で当中間連結会計期間前半において生産調整が入るなど厳しい市場環境下ではありましたが、市場ニーズにあった新製品の投入や海外市場への積極展開、新規顧客への拡販なども徐々に成果が見えはじめるなど事業全体としての売上は堅調に推移し増収となりました。ただ、利益面においては電子化学材料・はんだ付装置関連事業ともに市場における激しい競争を背景とした商品の低価格化や鉛フリーソルダーペーストの原材料である錫・銀などの高騰による原価の上昇が続くなどの厳しい状況もあり、減益となりました。

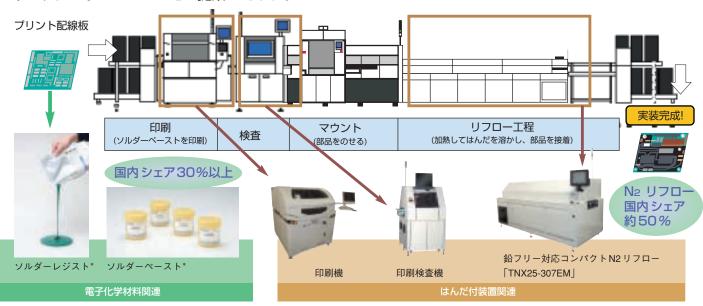
この結果、売上高は166億8百万円(前年同期比10.2%増)、営業利益では19億5千1百万円(同6.4%減)となりました。

電気製品の心臓部プリント配線板 プリント配線板材料・はんだ付け材料から実装装置まで、 トータルソリューションをご提案いたします

連結売上高 (電子化学材料・はんだ付装置関連)



(注) 売上高については、文中はセグメント間の内部売上高を含めており、グラフは外部顧客に対する売上高(事業部門間の内部売上高を除く)を表示しております。



OWER REPORT

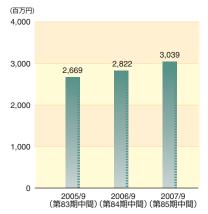
情報機器関連

事業改革も浸透し収益性も高水準で安定、引き続き、増収・増益

情報機器関連事業は、通信インフラ向けのネットワーク関連機器、セキュリティ関連の情報機器が引き続き堅調に推移し、無線関連機器も鉄道関連や放送局などへの拡販も進み、堅調に伸長しました。主力の放送関連設備はデジタル化の進展が遅れる中、新製品などの投入を行い、地方局をはじめ徐々に成果があらわれるなど事業全体として好調に推移し、売上は増収となりました。また、従来から取り組んでいる社員の意識改革、利益重視の事業改革、効率重視の業務改革の定着が進み、収益性の安定化が図れ、利益につきましても増益となりました。

この結果、売上高は30億3千9百万円(前年同期比7.7%増)、営業利益は4億6 千2百万円(同13.6%増)となりました。

連結売上高(情報機器関連)



(注)売上高については、文中はセグメント間の内部売上高を含めており、グラフは外部顧客に対する売上高(事業部門間の内部売上高を除く)を表示しております。

デジタル音声卓「AMQシリーズ」ラインナップ充実により 放送関連事業の更なるグローバル展開強化

今夏発売開始したAMQ1100の韓国MBC系列局への初納入をはじめ、AMQ5500を韓国SBS系列局へ初納入、AMQ7700を韓国KBSより受注するなど、韓国三大ネットワークへ展開を進めました。今後も国内の地上デジタル放送への完全移行をはじめ、北京オリンピックなどに向け、国内外市場へ積極展開を図ってまいります。

2005年発売



◆ AMQ5500

地上テレビ放送のデジタル化に向けて 国内地方局などで展開

2006年発売



◆ AMQ7700

シリーズ最高峰。世界最大級のミキシングを実現

2007年発売



◆ AMQ1100

コンパクトボティに多機能とユーサビリティ を両立した戦略製品

CSR活動レポート

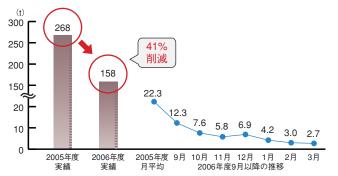
当社では、CSR活動の一環として環境問題に取り組んでおります。 例えば、製品の輸送に欠かせない梱包材。

当社でも海外から日本への輸出梱包に使用されていた木枠から発生する 木くずの削減が課題となっていました。

そのため、2006年9月より木枠梱包から、100%リサイクルが可能な特殊強化段ボール紙による梱包への切り替えを実施しております。

その結果、2006年度は2005年度に比較し、木くず排出量を41%削減しました。今後も切り替えを推進してまいります。

■木くず排出量の推移



■特殊強化段ボール紙による梱包への変更





木枠梱包

100%リサイクル可特殊強化 段ボール紙による梱包

◆ CSR報告書発行・新 CSR コンテンツオープンのお知らせ

2007年10月 CSR報告書を発行しました。 タムラ製作所ホームページ内、 CSRコンテンツをご覧ください。

アドレス

http://www.tamura-ss.co.jp/jp/csr/



特集:管球オーディオへの誘い

◆タムラグループの出発点 オーディオトランス ■

今も昔もいい音づくりに欠かせないタムラのトランス。 かつて多くの管球オーディオ愛好家を魅了したトランスが、今再び注目を集めています。

1920

~

1950

1960

1970

「田村ラヂオ商会」 設立 音声機器用低周波 トランス

ラジオ製作の過程で、 音質の決め手はトランス にあると発見!



自社ブランドの 電気蓄音機(1930) F-2000 シリーズ アマチュア向け オーディオトランス 発表 (1963)



アマチュアアンプ製作熱に合わせ、 初のアマチュア向け オーディオトランスを発表

▶ 放送機器用トランス

F-2010シリーズ

「聴感上音が前にでる、 音質がよい」の うたい文句で好評を得る。

(1976)

Bilirite

Biltriteの商標

…当社創業期の製品である 電気蓄音機、アンプに使用され、 特に高級品・高品位品につけられた

由緒ある商標

T's Bar

魅惑の管球サウンドを語り合う 大人の隠れ家。おもてなしのメニューは ホットな NEWS から クールなテクニックまで。



当社では管球オーディオ愛好家向け Webコミュニティサイト T's Bar をオープンしています。

URL:http://www.tamura-ss.co.jp/tsbar/

Audio Transformers



バーチャルからリアルへ ~T's Bar での企画を実演~

サイト上だけではなく、実際にその音色を聴きたい、 という声から、展示会での実演も行っております。





T's Bar 内の企画 「コンセプトアンプの製作」から出来上がったスペシャルコンセプトアンプ"Bourbon"。2007年10/2-6 開催のCEATEC (アジア最大級の規模を誇る映像・情報・通信の国際展示会)、10/6-7 開催の真空管オーディオフェアにて多くのお客様に楽しんでいただきました。詳しくは左記サイトT's Barをご覧ください。

連結決算

增収增益決算! (売上高 16.5% 増収、営業利益 5.7%・経常利益 13.2%・純利益 45.5% 増益)

| 中間連結貸借対照表 | | | 単位:百万円 |
|-----------|--------------|--------------|--------------|
| | 当中間期(第85期) | 前中間期(第84期) | 前期(第84期) |
| | 2007年9月30日現在 | 2006年9月30日現在 | 2007年3月31日現在 |
| 資産の部 | | | |
| 流動資産 | 60,043 | 56,758 | 57,470 |
| 現金・預金 | 14,924 | 12,160 | 13,474 |
| 受取手形・売掛金 | 28,611 | 28,458 | 26,778 |
| たな卸資産 | 12,893 | 12,912 | 12,211 |
| 繰延税金資産 | 659 | 886 | 867 |
| その他 | 2,954 | 2,340 | 4,138 |
| 固定資産 | 25,471 | 25,602 | 25,729 |
| 有形固定資産 | 17,910 | 16,670 | 17,483 |
| 建物・構築物 | 6,134 | 5,479 | 5,544 |
| 機械・工具・車両 | 5,419 | 4,927 | 5,350 |
| 土地 | 6,237 | 6,261 | 6,308 |
| 建設仮勘定 | 117 | 2 | 279 |
| 無形固定資産 | 1,555 | 1,141 | 1,470 |
| 投資その他の資産 | 6,005 | 7,790 | 6,776 |
| 投資有価証券 | 3,531 | 5,504 | 4,464 |
| 繰延税金資産 | 1,360 | 1,101 | 1,189 |
| その他 | 1,113 | 1,185 | 1,122 |
| 資産合計 ※1 | 85,515 | 82,361 | 83,200 |

※1 総資産 前期比23億円強増加

グローバルに販売が拡大し、受取手形・売掛金が前期比18億円強増加し、 また利益がキャッシュ化し現金・預金が同14億円強増加しております。

| | 4中間期 (第85期) 2007年9月30日現在 | 前中間期 (第84期) 2006年9月30日現在 2 | | | | |
|--------------------------|-----------------------------|-------------------------------|--------|--|--|--|
| 負債の部 | | | | | | |
| 流動負債 | 27,833 | 30,632 | 25,757 | | | |
| 支払手形・買掛金 | 16,413 | 13,428 | 15,085 | | | |
| 短期借入金· 一年内返済長期借入金 ※ 2 | 5,220 | 9,677 | 5,106 | | | |
| 一年内償還社債 ※ 2 | _ | 1,500 | _ | | | |
| その他 | 6,199 | 6,026 | 5,564 | | | |
| 固定負債 | 15,291 | 11,204 | 16,302 | | | |

12,155

2,486

43,124

648

8,097

2,436

41,837

670

13,137

2,484

42,060

680

| 純資産の部 | | | |
|--------------|--------|---------|--------|
| 株主資本 | 41,117 | 39.575 | 40.053 |
| 資本金 | 11.829 | 11.829 | 11.829 |
| | , | , - | |
| 資本剰余金 | 15,347 | 15,349 | 15,349 |
| 利益剰余金 | 14,136 | 12,563 | 13,055 |
| 自己株式 | △ 196 | △ 167 | △ 181 |
| 評価・換算差額等 | 1,046 | 760 | 888 |
| その他有価証券評価差額金 | 755 | 1,440 | 1,162 |
| 繰延ヘッジ損益 | 309 | 330 | 272 |
| 為替換算調整勘定 | △ 19 | △ 1,010 | △ 546 |
| 新株予約権 | 30 | 12 | 12 |
| 少数株主持分 | 196 | 174 | 185 |
| 純資産合計 ※3 | 42,390 | 40,524 | 41,140 |
| 負債純資産合計 | 85,515 | 82,361 | 83,200 |

※2 有利子負債の減少

その他

負債合計

長期借入金 ※2

退職給付引当金

有利子負債は圧縮を進め、前中間期比で19億円弱、前期比で9億円弱減 少しております。

※3 純資産 前期比12億円強増加

利益剰余金が利益の積み増しにより前期比11億円弱増加しております。

中間連結損益計算書

単位:百万円

| | 当中間期 (第85期) 2007年4月 1日から 2007年9月30日まで | 2006年4月 1日から |)前期(第84期) 2006年4月 1日から 2007年3月31日まで |
|-----------------|---|--------------|---|
| 売上高 ※1 | 46,826 | 40,189 | 84,172 |
| 売上原価 | 35,749 | 30,228 | 63,872 |
| 販売費及び一般管理費 | 8,705 | 7,714 | 16,074 |
| 営業利益 ※ 1 | 2,372 | 2,245 | 4,224 |
| 営業外収益 | 252 | 221 | 444 |
| 営業外費用 | 307 | 420 | 773 |
| 経常利益 | 2,317 | 2,047 | 3,896 |
| 特別利益 | 28 | _ | 797 |
| 特別損失 | 521 | 804 | 1,877 |
| 税金等調整前中間(当期)純利益 | 1,824 | 1,242 | 2,817 |
| 法人税、住民税、事業税 | 349 | 439 | 962 |
| 過年度法人税等 | 60 | 144 | 143 |
| 法人税等調整額 | 212 | △ 175 | 181 |
| 少数株主利益又は損失(△ |) △10 | 2 | △ 27 |
| 中間(当期)純利益 ※ 2 | 1,212 | 833 | 1,557 |

中間連結キャッシュ・フロー計算書

単位:百万円

| : | 当中間期 (第85期) 2007年4月 1日から 2007年9月30日まで | 前中間期 (第84期) 2006年4月 1日から 2006年9月30日まで | 2006年4月 1日から |
|-------------------------|---|---|--------------|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 1,822 | △ 882 | 3,806 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △ 32 | △ 620 | △ 2,577 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | △ 1,350 | 1,459 | △ 140 |
| 現金及び現金同等物 中間期末(期末)残高 | 14,743 | 11,992 | 13,347 |

※1 売上高16.5%増収、営業利益5.7%増益

売上高は電子部品関連事業が好調に推移し前中間期比16.5%の増収となりました。また営業利益は売上増収効果及び原価管理の徹底により5.7%の増益となりました。詳しくはP5-P7のセグメント別状況をご参照ください。

※ 2 中間純利益 45.5% 増益

中間純利益は前中間期を大きく上回り、45.5%の増益となりました。

中間連結株主資本等変動計算書(2007年4月1日から2007年9月30日まで)

単位:百万円

| 一个时任他小人工只不行交 | 701771 | (L007 + | - 11 I III | <u> </u> | F0/100 L | 10, C) | | | | | | 半位・日刀口 |
|---------------------------------|--------|---------|------------|----------|----------|------------------|---------|--------------|----------------|-------|--------|--------|
| | | | 株主資本 | | | | 評価・換 | 算差額等 | | | | |
| | 資本金 | 資本剰余金 | 利益剰余金 | 自己株式 | 株主資本合計 | その他有価証券 評価差額金 | 繰延ヘッジ損益 | 為替換算 調整勘定 | 評価・換算 差額等合計 | 新株予約権 | 少数株主持分 | 純資産合計 |
| 2007年3月31日残高 | 11,829 | 15,349 | 13,055 | △ 181 | 40,053 | 1,162 | 272 | △ 546 | 888 | 12 | 185 | 41,140 |
| 中間連結会計期間中の変動額 | | | | | | | | | | | | |
| 剰余金の配当 | | | △ 223 | | △ 223 | | | | | | | △ 223 |
| 中間純利益 | | | 1,212 | | 1,212 | | | | | | | 1,212 |
| 自己株式の取得 | | | | △ 18 | △ 18 | | | | | | | △ 18 |
| 自己株式の処分 | _ | △ 1 | | 3 | 1 | | | | | | | 1 |
| 連結子会社の増加に伴う増加 | | | 92 | | 92 | | | 35 | 35 | | 22 | 150 |
| 株主資本以外の項目の 中間連結会計期間中の変動額(純額) | | | | | | △ 406 | 37 | 492 | 122 | 17 | △ 12 | 128 |
| 中間連結会計期間中の変動額合計 | _ | △ 1 | 1,081 | △ 14 | 1,064 | △ 406 | 37 | 527 | 158 | 17 | 10 | 1,250 |
| 2007年9月30日残高 | 11,829 | 15,347 | 14,136 | △ 196 | 41,117 | 755 | 309 | △ 19 | 1,046 | 30 | 196 | 42,390 |

会社の概況 (2007年9月30日現在)

- 社 名 株式会社タムラ製作所
- 英文社名 TAMURA CORPORATION
- ■設 立 1939年11月21日
- 資 本 金 11.829百万円
- 従業員数 連結7.228名 単独698名
- ホームページ アドレス http://www.tamura-ss.co.ip/



■ 電車広告も展開中(関東近県)







■ 役 員

監査役

監査役

| 代表取締役社長 | 田村 直樹 | 上席執行役員 | 大野 隆生 |
|-------------|--------|--------|-------|
| 代表取締役専務執行役員 | 藤山 明基 | 上席執行役員 | 中野 朋之 |
| 取締役 | 蓑宮 武夫 | 執行役員 | 斎藤 慧一 |
| 取締役上席執行役員 | 李 国華 | 執行役員 | 橋口 裕作 |
| 取締役上席執行役員 | 浅田 昌弘 | 執行役員 | 久保 肇 |
| 取締役上席執行役員 | 中島 康裕 | 執行役員 | 豊増 勝元 |
| 取締役執行役員 | 飯田 博幸 | 執行役員 | 南條 紀彦 |
| 常勤監査役 | 宇田川榕一郎 | | |

佐藤 正典

守屋 宏一

タムラグループ企業 (主な連結会社)

海外 (子会社)

田村電子(香港)(有)[中国] 田村電子(深圳)(有)[中国] 田村電子(恵州)(有)[中国] *田村電子(上海)(有)[中国] *田村科技(股)[台湾] タムラ電子(マレーシア)(株) *タムラ電子(タイランド)(株) タムラ・ヨーロッパ・リミテッド[英国] タムラ・コーポレーション・オブ・アメリカ タムラ電子 (メキシコ) (株) 大豊電化工業(股)[台湾] タムラ化研(U.K.)(株) [英国] タムラ化研(シンガポール)(株) 同和タムラ化研(株)[韓国] 上海祥楽田村電化工業(有)[中国] 大豊電研(香港)(有)[中国] 大豊電研科技(東莞)(有)[中国]

※当中間期より新規連結会社

国内 (子会社)

タムラ化研(株)タムラ精工(株)

(株) タムラエフエーシステム

(株) タムラ古河マシナリー

若柳電子工業 (株)

(株) 東北タムラ製作所

(株) 群馬タムラ製作所

(株)会津タムラ製作所

(株) タムラ流通センター安全電具(株)

... . ___.

株式の概況 (2007年9月30日現在)

■ 発行可能株式総数 ・・・・・・・・ 252,000,000株 ■ 発行済株式の総数 ・・・・・・・・ 75.067.736株

■ 当中間期株主数 ・・・・・・・・・・・ 9,093名

■ 大株主(上位10名)

| 株主名 | 当社への出 | |
|-------------------------------|---------|--------|
| | 持株数(千株) | 出資比率 |
| 日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口) | 8,474 | 11.29% |
| 株式会社三井住友銀行 | 3,200 | 4.26% |
| 株式会社みずほコーポレート銀行 | 2,799 | 3.73% |
| 資産管理サービス 信託銀行株式会社(信託Bロ) | 2,722 | 3.63% |
| タムラ協力企業持株会 | 2,387 | 3.18% |
| 資産管理サービス 信託銀行株式会社(年金信託口) | 2,016 | 2.69% |
| 日本マスタートラスト 信託銀行株式会社(信託口) | 1,959 | 2.61% |
| 日本生命保険相互会社 | 1,942 | 2.59% |
| 株式会社りそな銀行 | 1,911 | 2.55% |
| 田村逸也 | 1,628 | 2.17% |

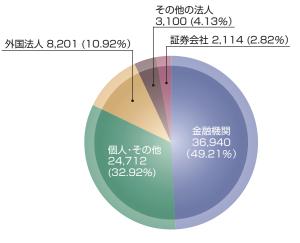
■ 株価及び出来高の推移



2007/3

■ 所有者別株式分布状況





合計 75,067千株

株主メモ(株式のご案内)

事 業 年 度 毎年4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 毎年6月開催

基 準 日 定時株主総会 毎年3月31日

期末配当金毎年3月31日中間配当金毎年9月30日

そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日

单元株式数 1,000株

株主名簿管理人 大阪市中央区北浜四丁目5番33号

住友信託銀行株式会社

同事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番4号

住友信託銀行株式会社 証券代行部

(郵便物送付先) 〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10

住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先) 住所変更等用紙のご請求 2000120-175-417

その他のご照会 🔟 0120-176-417

(インターネット) ホームページURL

http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html

同 取 次 所 住友信託銀行株式会社 本店および全国各支店

公告掲載新聞 日本経済新聞(東京)

上 場 取 引 所 東京証券取引所

株式会社タムラ製作所

http://www.tamura-ss.co.jp/

当冊子に関するお問い合せ先:

〒178-8511 東京都練馬区東大泉 1-19-43 TEL 03-3978-2111

※ 表紙は、毎年当社本社の中庭に飛来するカルガモ親子の模様です。

